



2019年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月13日

上場会社名 株式会社クラウドワークス 上場取引所 東
 コード番号 3900 URL http://crowdworks.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)吉田 浩一郎
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)野村 真一 (TEL)03(6450)2926
 四半期報告書提出予定日 2019年8月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第3四半期の連結業績(2018年10月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年9月期第3四半期	6,513	34.5	62	-	74	-	△70	-
18年9月期第3四半期	4,842	141.1	△78	-	△77	-	△168	-

(注) 包括利益 19年9月期第3四半期 △120百万円 (-%) 18年9月期第3四半期 △144百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
19年9月期第3四半期	△4.79	-
18年9月期第3四半期	△12.24	-

(注) 「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については、新株予約権の残高はありますが、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
19年9月期第3四半期	6,273	3,174	49.7
18年9月期	5,957	2,227	35.7

(参考) 自己資本 19年9月期第3四半期 3,115百万円 18年9月期 2,126百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
18年9月期	-	0.00	-	0.00	0.00
19年9月期	-	0.00	-	-	-
19年9月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年9月期の連結業績予想(2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業損益	
	百万円	%	百万円	%
通期	8,700	31.1	-	-

(注) 1 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 2 2019年9月期の連結業績予想におきましては、営業利益について黒字を維持する方針であります。昨今の開発人材の採用環境とFintechサービスの競争環境の激化によって、機動的な投資判断を行う可能性があるため、具体的な金額は非開示とさせていただきます。

また、総契約額については前期比+40%以上、売上高、売上総利益については前期比+30%以上の成長を目指しており、売上総利益を増加させることによる再投資の原資を確保しつつ、積極的な投資を効率的に実現し、企業価値向上を図ってまいります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

19年9月期3Q	15,100,160株	18年9月期	14,319,160株
② 期末自己株式数	48株	18年9月期	-株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	14,664,391株	18年9月期3Q	13,805,090株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	9
(追加情報)	10
(後発事象)	11
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは『働き方革命～世界でもっともたくさんの人に報酬を届ける会社になる』というビジョンを掲げ、創業以来、インターネットを活用して個人が報酬を得るための仕組であるクラウドソーシング事業を推進しております。具体的なサービス内容は、日本最大級のクラウドソーシング「クラウドワークス」を中心としたダイレクトマッチングサービスを核に、市場ニーズに対応する中で「クラウドテック」「Bizアシスタントオンライン」をはじめとした当社スタッフが企業と個人のマッチングを支援するエージェントマッチングサービスに分化し、さらには個人が報酬を得やすい環境作りを目指した周辺事業へと派生しております。

近年は政府が主導する「働き方改革」により、フリーランスや副業といった新たな個人の働き方が拡大しており、当社事業が対象とする市場の成長に対し大きな追い風が生まれてきました。このような好機の下、当社は継続的な事業成長を最優先とした戦略を進めております。

具体的には、営業黒字を維持する範囲での再投資を継続することにより、当社サービスを通じた取引の総額である「総契約額」の最大化を追求する方針です。併せて、再投資の原資となる売上総利益拡大を図るべく、取引から生み出される付加価値の率である「テイクレイト（対総契約額売上総利益率）」の維持改善に取り組んでおります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,513,746千円（前年同期比34.5%増）、営業利益は62,077千円（前年同期は営業損失78,993千円）、経常利益は74,229千円（前年同期は経常損失77,407千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は70,224千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失168,941千円）となりました。

セグメント業績については、次のとおりであります。

①ダイレクトマッチング事業

ダイレクトマッチング事業では、オンライン完結型のサービスである「クラウドワークス」における契約ワーカーの数と一人当たり契約額を拡大することで総契約額の最大化を目指しております。当第3四半期連結累計期間においては、新規登録ワーカーの獲得とサービスの顧客体験の改善によるマッチング率向上に重点的に取り組んだことにより契約ワーカー数が増加した結果、売上高は836,586千円（前年同期比18.5%増）となりましたが、広告費用の増加によりセグメント損失は36,228千円（前年同期のセグメント損失は12,996千円）となりました。一方、登録ワーカー数の増加に対し、クライアント企業からの仕事の依頼総額には拡大余地があり、クライアント企業向け施策の強化に取り組んでおります。

②エージェントマッチング事業

エージェントマッチング事業においては、「クラウドテック」が順調に拡大したことに加え、前第2四半期連結会計期間にサイタ事業を譲り受けた他、前第1四半期連結会計期間に株式会社電縁を子会社化したことにより前年同期に対し成長を遂げました。この結果、売上高は3,483,670千円（前年同期比32.5%増）、セグメント利益は74,148千円（前年同期のセグメント損失は67,546千円）となりました。当セグメントでは、スキルや企業からの信頼性が高く報酬単価も高いワーカーの登録数増加に取り組むとともに、当連結会計年度において利用企業の開拓を進めるべく西日本拠点における営業体制を強化を進めております。

③ビジネスソリューション事業

ビジネスソリューション事業は、前第1四半期連結会計期間に株式会社電縁を子会社化し、株式会社電縁及びアイ・オーシステムインテグレーション株式会社を連結の範囲に加えたことにより、売上高は1,994,379千円（前年同期比32.3%増）となりました。一方、当第3四半期連結会計期間末において長期開発案件における開発工数増加により売上原価率が上昇したことにより、セグメント利益24,832千円（前年同期比74.6%減）を計上いたしました。

④フィンテック事業

フィンテック事業は、前第3四半期連結会計期間において新設した報告セグメントであり、フリーランスの報酬

取得を保証するサービス「フィークル」を展開しております。併せて、株式会社クラウドマネーにおいて報酬を店舗などでの決済に利用できるデジタルウォレットアプリ開発を行っていましたが、同市場における競争環境の変化を受け、当第3四半期連結会計期間において本事業から撤退し、株式会社クラウドマネーを清算することを決定いたしました。これに伴い、システム開発契約等の途中解約が生じております。このような背景から、売上高は893千円（前年同期の売上高は27千円）、セグメント損失は76,027千円（前年同期のセグメント損失は34,197千円）となりました。

⑤投資育成事業

投資育成事業は、前第2四半期連結会計期間において新たに報告セグメントとして開示したものであります。第1四半期及び当第3四半期連結会計期間において営業投資有価証券を売却するとともに、当第2四半期連結会計期間において営業投資有価証券の評価損を計上したことにより、売上高198,216千円（前年同期の売上高はなし）、セグメント利益148,571千円（前年同期のセグメント損失は25,249千円）を計上いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて315,976千円増加し、6,273,693千円となりました。これは主に、行使価額修正条項及び行使許可付新株予約権の権利行使等により現金及び預金が533,340千円、事業拡大に伴う取引額増加により受取手形及び売掛金が86,317千円増加したことによる一方で、ビジネスソリューション事業における長期開発案件が検収されたことにより仕掛品191,336千円減少した他、ソフトウェアの減損処理により、その他無形固定資産が96,060千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて631,189千円減少し、3,099,096千円となりました。これは主に、短期借入金、長期借入金（1年内返済予定分を含む）及び社債（1年内償還予定を含む）が返済及び償還により、それぞれ650,000千円、74,335千円及び215,920千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて947,166千円増加し、3,174,597千円となりました。これは主に、第三者割当増資等に伴い、資本金並びに資本剰余金がそれぞれ532,521千円ずつ増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年9月期の通期業績予想につきましては、前回発表（2018年11月14日）から変更しておりませんが、現在精査中であります。業績予想の修正が必要と判断した場合には速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,021,105	3,554,446
受取手形及び売掛金	786,916	873,233
未収入金	461,409	468,569
預け金	26,982	13,807
営業投資有価証券	107,894	59,553
商品及び製品	74,245	45,580
仕掛品	250,508	59,172
その他	47,711	100,134
貸倒引当金	△18,202	△11,919
流動資産合計	4,758,570	5,162,577
固定資産		
有形固定資産	82,011	96,117
無形固定資産		
のれん	754,329	688,077
その他	111,948	15,887
無形固定資産合計	866,277	703,965
投資その他の資産		
その他	266,312	326,487
貸倒引当金	△15,454	△15,454
投資その他の資産合計	250,857	311,032
固定資産合計	1,199,146	1,111,115
資産合計	5,957,717	6,273,693

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	190,019	198,509
短期借入金	680,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	314,243	304,042
1年内償還予定の社債	520,000	324,080
未払金	267,084	447,459
未払法人税等	75,543	24,043
賞与引当金	78,992	78,947
預り金	776,323	841,304
その他	222,082	326,438
流動負債合計	3,124,288	2,574,824
固定負債		
長期借入金	391,026	326,892
社債	80,000	60,000
資産除去債務	51,469	53,877
その他	83,502	83,502
固定負債合計	605,997	524,271
負債合計	3,730,286	3,099,096
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,090,457	2,622,978
資本剰余金	2,049,120	2,581,641
利益剰余金	△2,017,155	△2,087,380
自己株式	-	△64
株主資本合計	2,122,422	3,117,175
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,812	△1,826
その他の包括利益累計額合計	3,812	△1,826
新株予約権	372	2,818
非支配株主持分	100,822	56,428
純資産合計	2,227,430	3,174,597
負債純資産合計	5,957,717	6,273,693

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年10月1日 至2018年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年6月30日)
売上高	4,842,351	6,513,746
売上原価	3,005,134	4,175,361
売上総利益	1,837,216	2,338,385
販売費及び一般管理費	1,916,209	2,276,308
営業利益又は営業損失(△)	△78,993	62,077
営業外収益		
預り金失効益	2,428	13,442
保険解約返戻金	-	7,778
助成金収入	10,000	-
その他	3,338	5,175
営業外収益合計	15,766	26,395
営業外費用		
支払利息	12,249	8,777
株式交付費	-	3,708
その他	1,932	1,756
営業外費用合計	14,181	14,242
経常利益又は経常損失(△)	△77,407	74,229
特別利益		
投資有価証券売却益	-	26,546
新株予約権戻入益	-	11
特別利益合計	-	26,557
特別損失		
固定資産除却損	481	1,113
減損損失	-	96,440
投資有価証券評価損	-	2,110
契約解約損	-	81,429
特別損失合計	481	181,094
税金等調整前四半期純損失(△)	△77,889	△80,307
法人税、住民税及び事業税	102,323	37,223
法人税等調整額	△38,604	△2,912
法人税等合計	63,719	34,310
四半期純損失(△)	△141,608	△114,618
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	27,332	△44,393
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△168,941	△70,224

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)
四半期純損失(△)	△141,608	△114,618
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,669	△5,638
その他の包括利益合計	△2,669	△5,638
四半期包括利益	△144,278	△120,257
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△171,841	△75,863
非支配株主に係る四半期包括利益	27,562	△44,393

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

当社は、当第3四半期連結累計期間において第三者割当増資、及び新株予約権の行使請求等に伴い、新株式763,500株の発行を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金は323,160千円、資本剰余金は323,823千円それぞれ増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,090,397千円、資本剰余金が2,049,060千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

当社は、当第3四半期連結累計期間において新株予約権の行使請求等に伴い、新株式781,000株の発行を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ532,521千円増加し、当3四半期連結会計期間末において資本金が2,622,978千円、資本剰余金が2,581,641千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注)	調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額
	ダイレク トマッ チング	エー ジェ ントマ ッチ ング	ビジ ネス ソリ ユー ション	フィン テック	投資 育成	計			
売上高									
(1)外部顧 客への売 上高	706,092	2,628,208	1,508,022	27	-	4,842,351	-	-	4,842,351
(2)セグメ ント間の 内部売上 高又は振 替高	9,245	-	252	-	-	9,497	-	△9,497	-
計	715,338	2,628,208	1,508,274	27	-	4,851,849	-	△9,497	4,842,351
セグメン ト利益 又は損失 (△)	△12,996	△67,546	97,555	△34,197	△25,249	△42,434	△15,346	△21,212	△78,993

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規開発事業等を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益との調整を行っており、支払手数料を含んでおります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

第2四半期連結会計期間において、株式会社電縁及びアイ・オーシステムインテグレーション株式会社の株式を取得したことに伴い、エージェントマッチング事業において金額380,320千円、ビジネスソリューション事業において金額416,972千円、総額797,293千円が計上されました。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)	調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額
	ダイレク トマッチ ング	エージェ ントマッ チング	ビジネス ソリュー ション	フィン テック	投資育成	計			
売上高									
(1)外部顧 客への売 上高	836,586	3,483,670	1,994,379	893	198,216	6,513,746	-	-	6,513,746
(2)セグメ ント間の 内部売上 高又は振 替高	28,210	31,054	2,718	-	-	61,984	-	△61,984	-
計	864,796	3,514,724	1,997,098	893	198,216	6,575,730	-	△61,984	6,513,746
セグメン ト利益 又は損失 (△)	△36,228	74,148	24,832	△76,027	148,571	135,295	△11,234	△61,984	62,077

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規開発事業等を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益との調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

	報告セグメント						その他	全社・ 消去	合計
	ダイレク トマッチ ング	エージェ ントマッ チング	ビジネス ソリュー ション	フィン テック	投資育成	計			
減損損失	-	96,440	-	-	-	96,440	-	-	96,440

(注) 1. 減損損失の詳細は以下の通りです。

用途	場所	種類	減損損失(千円)
事業用資産	東京都品川区	ソフトウェア	96,440

当社グループは、原則として継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分を考慮し、資産のグルーピングを行っております。当第3四半期連結累計期間において、収益性が著しく低下している事業資産について投資額の回収が見込めなくなったため、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、回収可能額は使用価値により測定しておりますが、継続して営業活動から生じるキャッシュ・フローがマイナスとなっているため、将来キャッシュ・フローを零とみなして算定しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。